

第3章 鳥取県における福祉の方向性(目指す方向)

「地域福祉の推進とみんなで作る福祉社会の実現」に向けて
共に生き、共に支え合い さりげなくつながって、
心地よく暮らしていける地域社会を目指します。

1 ご近所づきあいの大切さを感じる

私たちは、それぞれが住んでいる地域の中で、家族(世帯)を持ち、それぞれの家庭生活を営んでいます。そして、家族(世帯)単位で生活していく上で最も身近なつきあいは、ご近所同士のつきあいではないでしょうか。世帯構成は、かつてのような三世代、四世代といった大所帯から高度経済成長期には核家族化が進み、今では高齢者のみの世帯や単身世帯が増加しています。併せて、共働き世帯の増加により、近所づきあいが薄れつつあるという現状もあります。

世帯構成の変容に合わせ、ご近所同士で気軽に話し合え、助け合える関係—緩やかなつながり—をつくることは、私たちが住み慣れたまちで安心して暮らすための大切な要素になります。



2 気兼ねなく集える「居場所」づくり

私たちの暮らしの中で、「居場所」は重要な意味を持ちます。私たちは、日常的に「居場所」を様々なところで見つけ、その中で生きがい・やりがいを見出すなど、生きていく上での糧としています。そして「居場所」は単なる場所を指すのではなく、趣味や、特技などを活かした心よりどころでもあります。

高齢の方や障がいがある方の場合も同様で、安心して、気兼ねなく集える「居場所」づくりが大切です。高齢になったため、障がいがあるために移動手段や伝達手段がなく、あるいは不足していて、自らの力では「居場所」を見つけることが困難であり、支援する支え手が必要なケースもあります。

高齢になっても、障がいがあっても、身近なところで気兼ねなく集える「居場所」づくりを進めていくことが必要です。そのことが、その人らしく生き活きと生きていくことにつながります。



3 福祉の心（マインド）の醸成

戦後、日本の社会は、高度経済成長をとげ、私たちの生活も物質的には豊かになりましたが、心の豊かさを感じる人は少なくなったといわれています。また、近年は、不況が続く、日本社会全体が目標を見出せないまま、途方にくれているように感じます。

このような時代にこそ、人々は改めて心を見つめ直し、素直な気持ちで自分たちの幸福、まわりの人々の幸せを見つけ、実現していくことが大切です。その幸せ探しの中で「福祉の心」は心の豊かさのよりどころになります。

人間同士の支え合いの精神は、阪神淡路大震災のボランティアの働きによって開花し、先の東日本大震災でのボランティアの活躍で、改めて社会的な評価が高まりました。私たちは、多くのボランティアの活躍により、共に生き、共に支え合う「福祉の心」の大切さを教えられました。日常的な生活においても、同じことがいえるのではないのでしょうか。

また、「福祉の心」を醸成していくことは、寄付意識を高め、福祉活動を行う人達の活動を手助けしていくことにもつながります。

「福祉の心」を子どもから大人まで絶え間なく育み、高め、身につけていくことがみんなで作る福祉社会の実現につながっていきます。



4 安心して生活できる総合的なネットワークの構築

私たちは、身体や心の状況によって支援が必要となる場合があります。私たちが、住み慣れた地域で安心して生活していくためには、一人ひとりに合った総合的な支援が求められます。

そのためには、その人がその地域で暮らしていく上での問題を明らかにして、福祉・保健・医療の専門家やボランティア、民生委員・児童委員※等の地域で活動している方々が連携しながら、課題の改善や問題の解決を図るネットワークの仕組みが必要です。

「社会的孤立」「新たな貧困」「介護放棄」などの社会問題が頻発する中、従来の縦割りの支援や固有のサービスにとどまらず、地域での支え合いと様々な公私のサービスを組み合わせるなど、総合的な生活支援が今ほど求められているときはありません。

また、併せてネットワーク全体を支える人材の養成・確保も重要な課題です。

こうした取組みを通して、安心して暮らせる地域社会を目指します。

